

発刊に当たって

近年、子供たちの学力は、国内外の学力調査の結果から改善傾向にあります。判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べたり、実験結果を分析して考察し説明したりすることなどの課題が指摘されており、引き続き理科における観察・実験が重要と考えます。

また、小・中学校の新学習指導要領や、高等学校の新学習指導要領案においては、子供たちの知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成し、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を育むことが必要とされています。そのためには「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められ、理数教育の改善事項としては、見通しをもった観察・実験など科学的に探究する学習活動の充実を図ることが挙げられています。

こうした状況を踏まえて、北海道立教育研究所附属理科教育センターでは、観察・実験の充実に資する調査研究や教材開発、深い学びを実現する探究的な学習プログラムの開発等に取り組み、その成果を研究紀要としてまとめたところです。

各学校においては、本研究紀要をご高覧いただき、本道の理科教育の振興に広く役立てられるよう期待します。

平成30年3月

北海道立教育研究所長

前 川 洋